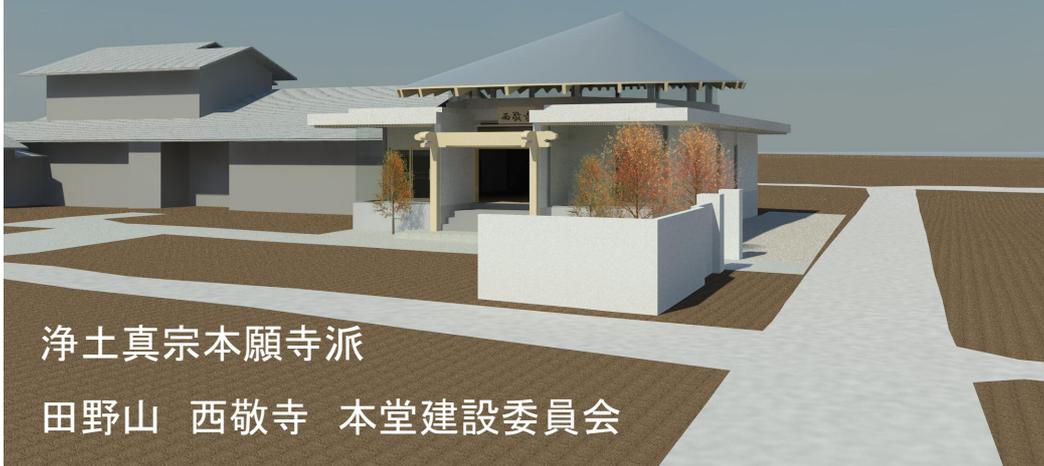


門信徒の皆様、有縁の皆様 どうか本堂建設にご協力下さい



浄土真宗本願寺派
田野山 西敬寺 本堂建設委員会

新本堂完成イメージ図

平成30(2018)年11月竣工予定



発行

浄土真宗本願寺派

田野山 西敬寺

〒381-0016

一月十七日の西敬寺本堂
観測史上八番目となった大
雪とも重なり本堂の屋根の一部
がトヨを含め損壊してしまいま
した・・・



昨年十二月発行の寺報第一号にて、皆様に西敬寺本堂改築事業
に関するご報告とお願いをさせて頂きました。
その後、改修委員会を建設委員会と改称し本格的な事業計画を
立案し作成した「西敬寺本堂建設事業趣意書」が、本年二月二十六
日の世話人総会にて諮問され、事業を円滑に推進すべく寺報第二
号(今号)にて、詳細な事業計画を門信徒の皆様、並びに有縁の皆
様にお伝えするよう答申がなされました。
是非とも皆様のご理解・ご協力を仰ぎたく、詳細な事業計画を
誌面を通じてご説明申し上げます。

何卒、趣意書と併せてご高覧頂ますようお願い致します。

二月二十六日の
世話人会の一場面



西敬寺本堂建設事業スケジュール

●これまでの流れ

* 平成28(2016)年3月～10月までの経過は、寺報「聞思」第1号にてご確認くださいませ。

日程	世話人会・建設委員会動向・建設計画の進捗状況
2016.10.30	・世話人会にて、門信徒の皆様へ2016年3月からの経緯をまとめた「ご報告とお願い」【西敬寺本堂改築事業について】を作成し、また今後の事業に関する理念の共有を頂く為の定期通信(寺報「聞思」第1号)を合わせて発刊・配布することが答申される。 また、渉外部会と住職・坊守を中心に2月26日の世話人会までにエーシーエ設計と仮契約を結び、基本設計をするよう委任される。
11.17	・第1回渉外部会(エーシーエ設計打ち合わせ)⇒基本設計開始
12.6	・第2回渉外部会(エーシーエ設計打ち合わせ)
12.14	・測量業務開始
12.15	・第3回渉外部会(エーシーエ設計打ち合わせ)
12.20	・「ご報告とお願い」・寺報「聞思」第1号発送(435部)
12.27	・第4回渉外部会(エーシーエ設計打ち合わせ)
2017.1.12	・第5回渉外部会(エーシーエ設計打ち合わせ)
1.20	・第6回渉外部会(エーシーエ設計打ち合わせ)
1.25	・全敷地測量完了
1.26	・第7回渉外部会(エーシーエ設計打ち合わせ)
2.2～2.8	・地盤調査
2.13	・第8回渉外部会(エーシーエ設計打ち合わせ)
2.21	・第9回渉外部会(エーシーエ設計打ち合わせ)⇒基本設計(案)完成
2.22	・第9回委員会 基本設計(案)が提示され予算の概算に従って、趣意書・添付資料の作成に取り掛かることとなる。また、委員会名を趣旨に合わせて「西敬寺本堂建設委員会」と改称することを世話人会に諮ることとなる。
2.26	・第10回委員会 世話人会に諮るべく趣意書・添付資料確認 ・世話人会にて建設委員会より、事業計画が諮問され計画に基づき「趣意書」並びに寺報第2号を3月25日に世話人を招集し全門信徒へ配布を計画するよう答申される。
3.6	・第10回渉外部会(エーシーエ設計・仏具関係事業者打ち合わせ)
3.14	・第11回委員会
3.22	・第11回渉外部会(エーシーエ設計打ち合わせ)⇒実施設計に向けて正式契約
3.25	・世話人会にて「趣意書」並びに寺報第2号配布、全門信徒へ御懇志奉納依頼のスケジュールを確認

●今後の予定

日程	世話人会・建設委員会動向・建設工事予定・奉納期間
平成29年 3月下旬	・「趣意書」並びに寺報第2号配布 * 担当世話人がいらっしゃる門信徒の皆様宅には郵送にて発送
4月～5月	・住職各地区訪問(御懇志奉納書お預かり)
5月～8月	第1期建設懇志奉納期間(8月末まで)
5月28日 (該当される門信徒の皆様には、4月中にご案内を発送致します。是非ともご参加下さいませ。)	<p>・西敬寺永代経法要</p> <p>* 現在の西敬寺永代経法要のご案内は、昭和56年の西敬寺庫裡新築の際に一定額以上の御懇志を奉納下さった施主様を対象に始まりました。その後、様々なご縁に際して永代経懇志を奉納下さった施主様並びに近年ご葬儀のご縁があった施主様、また新任の世話人様にご案内をしております。全門信徒の皆様対象ではないことをご了承下さいませ。</p>  <p>* 写真は、現本堂内に掲げられている「永代経札」になります。永代経懇志を奉納して下さった門信徒のお名前やご法名を記載し顕彰致します。新本堂においても継承してまいります。尚、この度の本堂建設の御懇志で10口以上奉納頂きました方には新しい「永代経札」を新本堂に掲げさせていただきます。</p>
6月上旬	・申請業務(7月中旬まで) ・請負業者説明会
7月上旬	・入札
7月下旬	・契約業務(9月上旬まで)
8月上旬	・施行準備開始
9月～12月	・ 第2期建設懇志奉納期間(12月末まで) ・9月中の土日・祝日の何れかで西敬寺報恩講法要並びにご遷仏法要
10月8日	・長命寺様住職継職奉告法要
10月中旬	・解体工事開始・起工式
平成30年 1月～3月	・ 第3期建設懇志奉納期間(3月末まで)
4月～6月	・ 第4期建設懇志奉納期間(6月末まで) ・西敬寺永代経法要(会場要検討)
7月～11月	・ 第5期建設懇志奉納期間(11月末まで)
11月	竣工予定
平成31年 4月	落慶法要を寺院創立555年・寺基移転320年記念法要と併せて予定しています。

●西敬寺本堂建設事業予算

NO	項目	金額	備考
1	本堂耐久性調査費	900,000	
2	本堂建設費	98,800,000	
3	庫裡トイレ増築工事費	3,100,000	
4	渡り廊下工事費	600,000	
5	解体工事費	2,100,000	
6	内陣・欄間・巻障子修復	4,140,000	
7	音響設備費	1,000,000	
8	設計・管理業務委託料	9,259,260	
9	落慶記念品	1,500,000	本堂古材を利用した男性・女性用セットの念珠その他
10	諸経費	1,100,000	測量・地盤調査
11	備品購入費	2,000,000	新規椅子・机・芳名額等
12	印刷費	300,000	
13	通信費	200,000	
	合計	124,999,260	
	消費税	9,999,941	
	事業費	134,999,201	
	予備費	2,000,799	物価上昇対策・落慶法要準備金等
	総事業予算額	137,000,000	

●資金計画

1、懇志調達額 13700万円

①住職準備金(含む借り入れ) 3,000万円

②門信徒からの懇志調達額 10,700万円

・算定方法:門信徒戸数(435)で均等割すると約25万円になることから1口5万円とし、1戸あたり5口(25万円)以上の御懇志の奉納をお願い致したく存じます。たいへん高額なご依頼となり、誠に恐縮ですがご高覧頂いた「西敬寺本堂建設趣意書」に何卒、ご賛同頂きご協力を伏してお願い申し上げます。

2、御懇志奉納期間

・平成29年5月～平成30年11月(1年6ヶ月間)

・一括奉納もしくは分割奉納(2分割から最大5分割)分割奉納期間に関しましては、今後の予定にございます赤字部分を御覧ください。

●記念品(奉納特典)に関して

御懇志奉納の勧進の一助として、奉納口数により次の特典をご用意させて頂くことになりました。

1, 全口数共通



- ①落慶記念品＝本堂の古材(欅材)を用いた
男性・女性用セットの念珠

* 左の写真は見本となります。

253年間西敬寺の本堂を支えてきた貴重な欅材を加工し仕上げます。写真の右側が男性用、左側が女性用になります。

2, 5口(25万円)以上10口(50万円)未満のご奉納



上記の①に加え

- ②本堂内に新設予定の奉納者芳名版に記帳

* 写真はイメージになります。実際とは仕様が異なります。

- ③住職直筆の色紙



* ご希望の一文字をお申し出頂き、その文字に印首印・落款印を押したものをご進呈致します。

* 写真は「慈」と希望して頂いた場合の見本となります。

3, 10口(50万円)以上20口(100万円)未満のご奉納



上記の①②③に加え

- ④永代経扱いとし本堂内に永代経札(顕彰札)を掲揚。

* 写真の現在の永代経札と規格が異なりますが、漆仕上げに金泥の文字にて永代に渡り顕彰致します。



- ⑤住職直筆の仏間用額三文字「無量寿」をご進呈致します。

* 写真はイメージです。額装別途となりますのでご了承下さいませ。

4, 20口(100万円)以上のご奉納



上記の①②③④に加え

- ⑥、住職直筆の六字名号「南無阿彌陀佛」をご進呈致します。

* 写真はイメージになります。軸装別途となりますのでご了承下さいませ。

●奉納方法に関して

1, 担当世話人がいらっしゃる地区の門信徒の皆様の場合

平成 年 月 日 西敬寺本堂建設委員会御中



御懇志奉納申込書

このたび、私は「西敬寺本堂建設事業趣意書」を熟読し、その内容に賛同しましたので、以下に署名し、懇志額・支払い方法を選択して奉納致します。

御芳名 ㊟

御住所 〒

【 】口 万円也

(1口、5万円とさせていただきます) ⇒ ご記入例 【5】口 25万円也

1. 奉納方法の選択 (①か②どちらかに○で囲み適宜ご記入下さい)

①「一括奉納」します 時期の目安 (年 月頃)

②「分割奉納」します (2分割～最大5分割)

第1期奉納期間 (平成29年5月～8月) 中に【 】口 (万円)

第2期奉納期間 (平成29年9月～12月) 中に【 】口 (万円)

第3期奉納期間 (平成30年1月～3月) 中に【 】口 (万円)

第4期奉納期間 (平成30年4月～6月) 中に【 】口 (万円)

第5期奉納期間 (平成30年7月～11月) 中に【 】口 (万円)

2. 奉納手段の選択 (下記の①～③いずれかを○で囲んで下さい)

①奉納袋を利用し担当世話人にお預け

②奉納袋を利用し直接西敬寺へお預け

③下記の指定金融機関に振込 (下記のイ～ニいずれかを○で囲んで下さい)

イ、ゆうちょ銀行 口座記号番号 00590-9-52102

ロ、八十二銀行 朝陽支店 口座番号 380890

ハ、長野信用金庫 古里支店 口座番号 0160885

ニ、ながの農業協同組合 長野平支所 口座番号 0085200

ホ、長野銀行 柳原支店 口座番号 8815539

振込先 (各行共通) 名称: 宗教法人西敬寺 住所: 長野市大字南堀336番地
電話: 026-243-5570

誠に恐縮ですが振込手数料は振込者負担にてお願い致します。

①趣意書と寺報第2号(今号)と併せて左記の

「御懇志奉納申込書」(A4サイズ)を担当世話人がお届けします。その際に後日(4月～5月中に)住職と世話人にて「御懇志奉納申込書」を拝受するためにお伺いする日程をお伝え致します。



②趣意書と今号をご熟読頂いた上「御懇志奉納申込書」にご記帳をお願い申し上げます。

*誠に恐縮ですが住職訪問日に、ご不在の場合は、事前に担当世話人にお預け下さい。



③「御懇志奉納申込書」を拝受申し上げ、お仏壇にご恩報謝のお勤めをさせて頂きたく住職・担当世話人で参上致します。



④ご記帳頂いた方法・手段に沿って奉納下さいませ。

*ご不明な点がございましたら担当世話人の方にご相談頂くか、西敬寺(026-243-5570)までお問い合わせ下さい。

2, 担当世話人がいらっしゃらない門信徒の皆様の場合

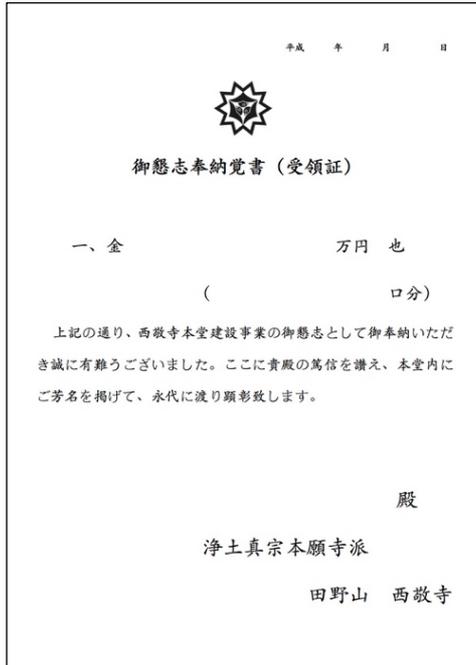
たいへん失礼ですが、趣意書と寺報第2号(今号)を郵送させて頂きました。

後日(4月～5月中)に「御懇志奉納申込書」をお届けに参り、直接拝趨の上ご記帳をお願い致します。

日程に関して、誠に心苦しいのですが、該当される門信徒の皆様が150軒を超え、またお住いの地域が市外に及び、更には、ご葬儀のご依頼があった場合には急遽変更しなければならない為、ご希望をお申し付け頂いて事前にお約束することが出来ません。ご不在だった場合は、「御懇志奉納申込書」のご返信用封筒をお預けしてまいります。何卒ご容赦下さいませ。

ご不明な点がございましたらたいへん恐縮ですが、西敬寺(026-243-5570)までお問い合わせ下さい。

●奉納ご完納後に関して



ご完納頂いた門信徒の皆様には左記の「御懇志奉納覚書」(受領書)(A4サイズ)を発行させていただきます。

また、今後の寺報第3号(お盆頃に発行)4号(年末に発行)にて奉納状況・資金計画に関しての経過報告を透明性を持ってお伝えしてまいります。

尚、記念品(奉納特典)に関しましては、平成31年4月に予定しております落慶法要に際してお渡し、「御懇志奉納者芳名版」・新規「永代経札」も併せてお披露目させていただきます。

ご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

編集後記

劫初より 造り営む 殿堂に

我も黄金の釘ひとつ打つ (与謝野 晶子さんの歌)

「劫」と言う字は『正信偈』の中に「五劫思惟之摂受」と出てきますが、その意味は「久遠劫」とか「永劫」のと使われるように天文学的数字を表す時に仏教でよく使われます。(ちなみに「一劫」は仏典に、四十里四方の大石を、天人の羽衣で百年に一度払い、その大きな石が摩滅して無くなってもお「一劫」の時間は終わらないと譬えています。また、方四十里の城に小さな芥子粒を満たして百年に一度、一粒ずつ取り去り、その芥子がすべて無くなってもお尽きないほどの長い時間であるとされています。)

この歌の意味は「いつ始まったか分からないけれど、人類がこの世に生を受けて以来、私達の先人が造り営んで今日まで伝えて来てくれた有形無形の文化の殿堂の上に、今、私は生かされている。その殿堂に、私も何か一本の小さな釘でもいいから『キラツ』と輝く黄金の釘ひとつを打って、この世が終われたら素晴らしい」と願われたものです。

今、本堂建設のご縁を頂いて去来するのは、多くの先人達が西敬寺を聞法の殿堂として、おひとりお一人が絶え間なく「黄金の釘」を打ち続け護り傳承して下さったという尊さ有り難さです。

微力で、愚かしい私ではありますが、先人たちへのそして私を救わずにはおられないとお慈悲を垂れ続けて下さる阿弥陀如来さまへの御恩報謝として皆様と一緒に建設事業に励んで参りたく存じます。

住職 釋 慈教 拝
合掌